

令和6年度第2回 高砂市文化振興審議会

日 時 令和6年11月11日（月）18:00～
場 所 高砂市役所南庁舎5階 大会議室

出席委員	会 長	田端 和彦	委 員	天野 富美男
	副 会 長	藤村 清春	委 員	加茂 朋之
	委 員	岩見 一美	委 員	藤田 義一
	委 員	伊東 節子		
	委 員	小川 博子		

欠席委員 委 員 中野 哲郎 松下 尚平

出席事務局職員

健康こども部長	藤田 将太郎
健康こども部健康文化室長	三浦 一郎
教育部教育推進室長	福本 典子
教育部学校教育室長	平山 健二
健康こども部健康文化室	
文化スポーツ課長	井村 欽也
健康こども部健康文化室	
文化スポーツ課 係長	澤田 伸也
健康こども部健康文化室	
文化スポーツ課	吉川 敦子
健康こども部健康文化室	
文化スポーツ課	吉岡 耕平
健康こども部健康文化室	
文化スポーツ課	石井 千草

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ
- 3 議 題
(1) 令和6年度・令和7年度予定事業について
- 4 そ の 他
(1) 今後のスケジュール
- 5 閉 会

○司会

1. 開 会

【司会】ただ今より令和6年度第2回高砂市文化振興審議会を開催いたします。
当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただきますが、本日傍聴希望者はありません。
委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

【司会】

本日の会議は、中野委員、松下委員より欠席の申し出がありましたので、出席者8名、欠席者2名により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることをご報告いたします。

5. 議 題

それでは、議題へと移りたいと存じます。
会議録作成のため、発言の際はマイクをご利用いただき、お名前を名乗っていただきますよう、お願いいたします。

今後の議事進行は、審議会規則第5条第1項により会長にお譲りしたいと存じます。会長よろしくお願いたします。

【議長】

今日は皆様、まずは、秋、お忙しい時期にお集まりくださりましてありがとうございます。今の季節は、秋がなかなか短いというふうに言われておりますけども、秋の行事って大変多い、特に文化行事、それからお祭りなどを含めた伝統行事が多い時期でございます。皆様方におかれましてはそれぞれの地域や団体様で、様々なご活動をされておられると思えます。

そうしたお忙しい時期にもかかわらず、お集まりくださいましたことにまずは感謝を申し上げたいと思っております。

文化行政だけでなく、今の地域がどういう個性を發揮するのかっていうのは、非常に重要な観点でございます。石破内閣は地方創生を、今日また第二次石破内閣が成立したわけですけども、地方創生はやはり大きな柱に掲げておりますので、地方がそれぞれ独自のものを發揮して、競争力を高めていく、そうした中でももちろん文化というものは、その独自性の最たるものであるというふうに思っております。

本日中野様、松下様、ちょっと経済界の関係の方がちょっとお見えになってないので、その辺りもう少し議論すべきところだったかもしれませんが、ちょっと十分じゃないかもしれませんが。ただ今日はですね、またご説明がありますように、実際皆様のご意見を踏まえて、具体的に令和7年度事業を進めていくのかということについて、突っ込んだご議論いただきたいなと思っておりますので、毎回でございますけども忌憚のないご意見を賜りたいというふうに思っております。

そうしましたら、次第に沿って進めさせていただきたいと思えます。

議題の一番、令和6年度7年度予定事業につきまして、事務局の方からご説明をお願いいたします。

【事務局】

事務局でございます。

議題の(1)令和6年度・7年度予定事業につきまして、ご説明いたします。

資料1の「第2次高砂市文化振興基本方針令和6年度・7年度予定事業」、そして資料2、こちらは事前に委員の皆様からご意見、ご質問があった内容について、各課から回答を作成しましたので、こちらもお覧ください。

それでは、主なものを資料1の1ページから順番にご説明いたします。

まず、1ページ、111-01、「高砂学」につきまして、高砂の歴史や文化について学ぶ機会を設けることを目的として取り組んでおります。

資料2の意見書で、委員より高砂学で市のゆかりの人物、代表する人物をとりあげて講座編を

開催してはどうか、ということで、事業番号としましては「332-10、高砂ゆかりの人物の顕彰」、資料1では33ページの内容になります。もちろん高砂学以外での取り組みということも可能性としてはあるかと思いますが、ゆかりの人物と今現在の講座の取組みをマッチングさせようとしたときに、一番スムーズなのはやはり高砂学ではないかということで、来年度は高砂学受講者へのアンケートの意見をもとに、講座編で人物を扱うことを考えております。回数や講師についても今後検討していきます。

次に111-04「歴史ガイドクラブによるまち歩き」についてです。意見書にて委員より高砂観光交流ビューローのまち歩きも市の事業に活用してはどうか、とご意見をいただいております。来年度まち歩きの候補として検討しております。また、観光交流ビューローのまち歩きは、令和4年より市職員の新人研修としても活用しております。

次に111-07「高砂市美術展」についてです。現在作品受付期間で、少しずつですが、作品の出品申込みも集まっております。たくさんの方に出品いただけるよう、市施設だけでなく、山陽電車の駅や銀行、コンビニにもポスターを持ち込み、積極的にPRを行っております。また、資料2にも挙がっております、美術展に限らずということなんですが、関連のご意見として「行事看板」の件につきましては、資料の方でも回答しておりますけれども、設置による効果が未知数な中、まずは設置にかかる初期費用等も参考に、そして設置場所によっては届け出、使用料の発生なども考えられますのでそういったことも見込んだうえで、来館者の増、利用率の伸びにどうつながっていくかなど、まずは一定の条件を一つだけではなく複数のプランでの検討が必要と考えております。

次に2ページ、111-13「病院・福祉施設の活用」でございます。こちらの事業については令和5年度、慰問への調整の問い合わせがなかったということでC評価となっております。令和7年度以降はまだ未定という記載となっておりますが、なんとか今年度中に目標の1件の実施を目指し、各種団体と病院施設等との調整をとって令和7年度以降につなげていきたいと思っております。病院施設や介護施設など、通所の施設をメインに考えていきたいと思っておりますので、決してハードルは高くないかと思っております。

次に4ページ、112-07「ふれあいの祭典ひょうご民俗芸能祭」です。9月8日(日)に文化会館じょうとんばホールで開催しました。市内から4団体、市外から5団体が出場し、来場者は430人でした。他市から出演された方々も、高砂にまつわる演目を披露してくださり、高砂らしさがあふれる芸能祭となりました。

なお、この事業につきましては、兵庫県内において計画的に毎年開催地を変えていきながら実施されている事業のため、本方針上では令和7年度以降の実施は予定しておりません。

次に同じく4ページ、121-02「地場産業人材育成等支援事業」です。この事業については、先ほどの「病院・福祉施設の活用」と同様に令和5年度の実績においてはC評価であったこと、そして令和7年度以降、継続のうえ拡充となっておりますことからフォーカスするものです。拡充する内容については、ワークショップの回数増ということで、令和6年度は4回のところを令和7年は10回開催する予定だと聞いております。

また、C評価であったその他の事業についてですが、「高砂観月能」の実施に影響される事業が多かったので説明としては、それら事業の令和7年度以降につきましては、廃止となっております。

また、前回の審議会にて委員の皆様からご意見をいただいております、各課へのフィードバックといたしまして、第1回文化振興審議会における意見等を取りまとめたものを、各課へ送付し、内容を共有いたしております。

説明は以上です、よろしく申し上げます。

【議長】 ありがとうございます。

事前にご意見を賜ったものについては、すでに担当課から回答していただいておりますし、いつもこの委員会では個別のことについてお伺いしているのですが、せっかくこれだけ各方面からお

集まりいただいておりますので、できれば令和7年度事業に向けて、もう少しつっこんだ議論はしたいなということで事務局の方から、特に協議をしたいこととして3点あるというふうにお聞きをしております。順番にご説明いただいてそれについて、皆様のご意見を賜りたいというふうに思いますので、まずは事務局の方からご説明のほどよろしく願いいたします。

【事務局】

はい。本日の会議では、次年度高砂文化教室「高砂学」の内容について、皆様からご意見をいただきたく、令和6年度に予定されている事業について、資料をお配りしております。高砂学はふるさと高砂を愛し、誇りに思う心の醸成を目的に、平成23年より実施しております。開催当初は講座編をメインに市民講師を募集して実施していましたが、図書館の事業との差別化をはかることや、コロナ禍の影響もあり、講座編は少なくなっております。先ほど説明しましたとおり、委員からもご意見をいただいております、アンケート等も活用して事業を決めていく予定ではありますが、文化に精通されている皆様のアイデアもお聞かせいただき、多くの人に高砂の良さを知ってもらえる講座を実施したいと考えております。予算の有無や会場等はひとまず考えず、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

【議長】

皆様のお手元の方に、令和6年度高砂学及び実績をいただいたんですが、令和6年度の事業へのご質問でも結構ですし、これ見ていただけてほしい傾向もわかると思うんですけども、それ以外のですよね、ご提案ということもお受けしたいと思っております。

ちなみにちょっと確認だけなんですけども、先ほど枠組みあんまり考えないっていうふうにおっしゃっていただいたんですが、例えば、今ここで人数が20名とか10組とかっていうような、ある程度、これも一緒枠組みですよ。

こういうものは想定された方がいいのか、それからこれ見ると、休み期間にほぼ集中してるところがあったりするんですけども、日程等は何か考える必要があるのか、そのあたりどうなんでしょう。これだけはちょっと守って欲しいと、どうしても難しいところがお聞きしなくてよろしいんでしょうか。

【事務局】

実施する期間におきましては、土曜日、日曜日あたりになるかと思っておりますけれども、ひとまずそこは考えずに、運用の規模や参加される人数くらいは参考にお考えいただけたらなというふうに思います。

【議長】

ということで、ご意見いただければと思いますせっかくで。

【副議長】

高砂学の過去の実績の、平成23年度を見てもらって、人数が減ってる状態が余りにも顕著に、現れてるんだけど、だんだん体験型のものが入ってきてることは確かなんですけれど、少しその平成23年度のような形で、もう少し人がこう採集する、そういう講座も入れていってもいいのかなっていう気はするんですけど、いかがでしょうか。

【議長】

はい。

ありがとうございました。

これ過去実績の方で、これは専門委員の招きと書いてあるので、おそらく高砂に精通された、おそらく学校の先生かと思うんですけども、先生方が行われてると想定ができるんですけど、24年ぐらいまでは多いですね。

はい。

ありがとうございます。

どうですか聞いても多分、事務局としてはあとしか言いようがないと思うので、まずご意見としてはたくさん人数集められるような講師を選定された方が、ということですね。

【副議長】

一部でもね。

【議長】

ありがとう。今日はご忌憚のない意見をということで。今、これ基本的には見ていただくとわかるように、特に講座編の方については、かなり歴史的なところが中心になっておられて、も

ちろん実績を見ても、歴史的なものが中心であるっていうのは、もともと郷土の歴史を学ぶってのが趣旨でありましたからそうなんですけれども、やはり今の高砂がどうなってるんだっていう、「高砂学」っていうのをもっと幅広くとらえてるのかなっていうふうには若干感じたりはしております。だから趣旨が歴史や文化を学ぶということになってますから、その傾向は間違いないんですけども、もう少し、最近の課題でもいいのかな。そうすると企業の方なんかに来ていただいて、話をする。よく環境のこととかですね、カネカさんとか、詳しい方も多いでしょうから、そのような話も面白いかなというふうに思います。私も意見を出させていただきましたのでどうぞ皆さん、意見を述べてください。

【委員】

平成 23 年度から、この講座編が随分減ってる理由というのは。

【議長】

じゃあとりあえずご質問ですので、多分事実確認だと思いますので、いたします。

はい。

【事務局】

ご質問ありがとうございます。

事務局としましては、人数減に繋がっているような、毎年、同じ議題或いはその同じ人物を取り上げた歴史的な講座っていうのは、ちょっと避けたいというような流れで、毎年違った人の話であるとか、題材を取り上げてやっていることなんですけれども、そこに集まる人数っていうのが、なかなか集まらない、そこについてはなぜなんだっていうところで、だんだんその講座へ、少なくなってきたその人を集めやすい活動編なんかが増えてきたっていうような、状況になっておことは事実としてあります。

ただ、なぜ講座編があまり受けが良くないのかっていうところの検証については、まだそこまで突っ込んで、私たちも整理ができていない部分がございます。

【議長】

ニーズに合わせてというふうなことになるんですけども、なぜ減ってるのかがわからないままはちょっとどうかと思うんですが、本来ならこの要因を突き詰めて、考えなきゃいけなかったんですけども。人気がないからということで減らしていただければと思います。

委員いかがですか。何かもしお考えとか、ご意見は。

【委員】

講師の方の選出、選定のプロセスは。

【事務局】

当初は、市民講師募集ということで、広報等で募集をかけ、高砂学の趣旨を理解していただいたうえで、希望者に講師になってもらってました。活動編については、文化連盟の方に文化スポーツ課からお願いして、例えば、高砂の風景をじっくりと見て景色を絵描く高砂の写生会や、高砂を散策してその景色から俳句を詠む句会といったことをしてました。さまざまな文化と高砂を結び付けて、高砂学として実施できるように講師をお願いをしていきました。

また最近、講座編では、文化スポーツ課の職員が、講座が出来そうな人を発掘し、こちらがお願いに行っていました。こちらから情報を見つけていくため大変な面もありますが、そうした中で講師を依頼しています。

【議長】

鍵となるのは講師ではないかと思いますが、委員のご意見等も合致すると思います。講師探しは、もう少し工夫が要るのではないかと思いますので、1つには、人を集められるような有名どころも含めて、やはり講師探しは鍵になると思いますが、他いかがでしょうか。

これ以外でお気づきの点や、こういうところを改善してはどうかとか、こういった例えばさっきの講師だったらこんな方がいるんじゃないかというようなご提案でも結構だと。

えっとさっきの報告書選定で、これは教育委員会ではなくって、市長部局でやってましたか？ どうですかね、以前はこれを見ると、市史編纂課なんかも関係しているのではないかと。

【委員】

教育委員会が選ぶとかではなく、僕はちょっと思ったのは、講座と、例えばフィールドワークとタイアップができるのかな、と。話聞いて、同じ日じゃなくていいと思うんですけど、それを受けて町に出たりとか、歴史を感じたり、体験したりができないかなと思います。

【議長】

ありがとうございます。

講座だけでなく組み合わせることでもう少し人が集まるようなこと。他いかがでしょう。

【副議長】

また、こんな講師が欲しいとか、言ってもらったら、兵庫県いなみの学園に5年間職員してた時に、600講座を組み立ててきたんですよ。それで、明石に3年間いた時もその200名ほど明石の全公民館の館長に、住所等すべてお示しさせてもらって、たくさん利用してもらいました。また声かけてください。

【議長】

ありがとうございます。

まず、1つ申し上げたのは、もともと郷土の歴史ということで歴史が多いんですけど、今っていう側面で切り取れないかということ、やはり講師の選定をもう少し幅広くされてはどうかということ、それから、講座の中身の工夫ですね、こういう講座をしてくださいただけじゃなくて、委員おっしゃる通りフィールドワークと組み合わせるとか。

活動編は、それに近いと思うんですけども、もう少し中身のある講義と合わせて活動編をしていくとかですね。先ほど言った考古館がやってるのは例えば、槍なんかを作るときに、ちゃんと時代の背景を勉強した上で行われると。あと先ほど県の方からの講師の話もしましたが、高砂市だけにこだわる必要はないと思います。例えば今、中播磨あたりだと、山城なんかは結構人気です。加古川観光協会は山城の御朱印帳なんかも売ってあったりするんですが、やはり、この地域だけに限るんじゃなくて、もっと幅広く、例えば海でいけば、北前船寄港地は日本遺産になってるわけですから、そういったものをテーマにするとか、幅広い観点からしてもいいと思いますし、もちろん日本に限らず、海外との関係もあるのかもしれない。大体そこに書かれてることは、石の宝殿にしても、宮本武蔵にしても大体のことはご存じの方が多いですけども、全く違う観点から掘り起こすと、また違った意味でメインとなるのかなと思います。

もし、まだご意見賜ってない方、いただきたいんですが。

【委員】

平成23年度からの実績を見させてもらった時に、参加人数が減っていきますよね。最初の1回目のこの100、200人ぐらい参加人数いるっていうのは、大体これだけの人数ですわ。23年からずっと見てたら100人を超えてる講座がありますよ。結構ね。だんだんと令和になってから少なくなってる。提案としまして、どのような集め方をしているか、募集をしますよね。参加希望でとってるわけですよ。強制はしないですよ。

1つ、責任にするっていうかね、どこかの団体で何人かとか、あくまで希望者を募るというのも大事なことだと思うんですけども、講義があってもお尻叩かれへんかったら、いかへん人もおるんですよ。無理やりに連れて行くわけにはいかないですが、高砂ってこんななんやという、触れ合う機会を、半強制的なチャンスを持ってみてもいいんじゃないかな。例えば私、自治会やってますけれども、自治会で講座をさせてもらえませんかとか、言われるので。自治会は何名出てきて、伊保だと伊保村とか、竜山ももちろんそうなんですけど、そういうお話聞きませんかとか働きかけていくと、聞く機会を持たなかった人も、こういう土地やっとなんやなっていうのを知ると、また興味が湧いて、高砂の歴史とかそういうのを、調べてみようかなというような、1つのきっかけになるんじゃないかなと思います。反強制も含めて考えてみていいのかなと思います。以上です。

【議長】

ありがとうございました。なかなか難しいところもあるんですけども、そもそも趣旨からすると、高砂を知っていただく機会があればという意味で、おっしゃっていただいと。

【副議長】

この審議会に、委員とか伊藤さんとか、お三方おってやけど、実際この人らホールコンサートやったらね120人に近く、来るわけやから、例えば、太鼓の演奏と太鼓体験とかね、ジョイントするみたいな格好でね、コーラスの演奏と、コーラスの歌い方を指導するという格好で、組み合わせをしていったら、人が演奏に引かれながら来るって考えられないかなという気はするんです。せっかく今ホールコンサートが、120名ぐらいずっと常時来てますんで、そういう音楽

の力を体験と合わせて、取り入れていってもいいのかな、会長がおっしゃる、もっと現代の、高砂学があってもいいかなという、その基礎としてそういうことがあってもいいのかなと思います。

【議長】

あとどうでしょうかご意見いただきたいんですが、委員とか、ちょっと首かしげて、おしゃべりしにくいかなと思いがらずいませぬ指名しましたけど。

【委員】

今委員さんが言われたように、人数が令和になって、減ってきたとかいうあれは、一つはコロナのせいもあったと思います。それから、さあ、またやろうかっていうことのきっかけがまた、なかなかだと思いが。また、その現場に行くにしても、足の問題ですね。私たち、北脇におるんですよ。高砂の端で、やっぱり一番端っこの人たちが、そういうじょうとんバスとかが必要なんですけれども、それも廃止。廃止なんです。そしたら、時間はあるし、ちょっとどっか行きたいと思うけど足がなかったら、やっぱりし出にくい方もたくさんいらっしゃると思います。こないだの花火のときも、足の問題がありました。交通の問題が。お金は取られるわ、歩いて行かなあかんわいうことで、そう言われる声がいっぱいありました。だから、その足の問題と、それから今度は、その次に出て行こうという気持ちを持たせるような、何かがあったらいいかなと。興味を持つような、先ほど音楽とコラボしたらいいっていうことで、その内容ですね、太鼓は太鼓だけにするんじゃなくてね。面白くっていうか、要するに他の音楽と合わせたり、踊りをしたりして、そういうことで、ホールコンサートはこんなに面白いや、楽しいなということ、植え付けていただけたらいいかなと思います。

私が特に言いたいのは足の問題です。じょうとんバスが廃止になってるところがいっぱいありますのでね。

【議長】

ありがとうございます。

受講者をどう増やすのか、っていうのも大事だろうと、受講者をふやすことによって、おそらく、最初の委員へのご質問にあった受講者が減ったから講座が減ったんだというこの流れを逆転する方法があるんじゃないかということで、委員からは、強制性をもったらいいいんではないかとか、委員からは、足をなんとかしてほしいと、あと、最近だとオンライン使ったらどうかという議論があるかもしれませんね。そういったご意見があったところでございます。他にいかがでしょうか。まだご意見いかがでしょうか。

【委員】

教育委員でいらっしゃる吉田先生が、高砂物語という曲を作ってらっしゃるんですけれど、今回は市制70周年だったので、この間市民音楽祭で子どもに歌わせていただきました。

そしたら、こんなにいい曲があるのっていう方がたくさんいらっしゃったんです。吉田先生がその曲を作るために、民話のこともすごく勉強してらっしゃいましたから、例えばその、子どもが歌う、それからその民話について話をするっていうようなものすると、興味があってこられる方がいたり、この民話はこうなってできてる、石の宝殿は、こうやってできたとか、いろんなところのお話にもなっていますので、ちょっとそういうものが楽しいかなと思います。あと小松原の素晴らしい若手の作家で、山口さんという方がいらっしゃるんですけど、この方は京都の襖絵を描いたり、素晴らしい方でいらっしゃるんです。その方はシーンとした中で自分の作品を描いて、その音を楽しむとか、それから銀座のアルマーニの作品を描いていらっしゃるんですけど、そのような方でしたら地元のためにお力を貸して下さって、いろんな案を出して下さったり、素晴らしい部分に触れる時間をいただけたりするのではないかと思います。これは、私の知ってる方をご紹介したような感じになりますけれど、そういうのも楽しいのではないかと思います。以上です。

【議長】

はい。ありがとうございます。

具体的にお名前を出していただいて、もともとされていたように講師を募集するっていうのも、平行で考えてもいいんじゃないかというふうにも受け取らせていただきまして、もちろん中にこう募集しても来てくれないので、委員の言うように働きかけてもらわなきゃいけないんですけど、そういったことも必要なのかなと思いました。

あと、委員いかがでしょうか。

【委員】

例えば、横出先生の琴にしても、その時によってかなり人数の差がある。こういった人数の差を、どういうふうにとらえてらっしゃるのか、ただ人数を挙げているだけじゃなくって、なぜ今回このようになってきているのか。また、令和6年度に関しては、松本先生の謡曲も、4日間のうちの12人っていうのは、延べ人数ですかね。

【事務局】

登録人数です。

【議長】

名簿に載ってる人数が12人、12人×回数分で延べ人数になるわけですよ。

【委員】

前より減ってるっていうのはわかるんですけども、かなり多いときと少ない時の差があって、人数だけじゃなくて、その原因とか、例えば参加された方にアンケートはとられてるんでしょうか。大体これを実施するにあたって、どのぐらいの人数きそうだなあということは予測されてると思うんですよ。その結果どうなのかという何かその辺りがちょっとこれ見せていただいただけではわからないですけども。だから次回実施するにあたって、どこをどうすればもっと人数が集まるのかなあとか、どう改善していったらいいのかなというふうにお考えなのかがちょっとわからない。

それから今年度は、民俗芸能祭が高砂市であたっておりましたので、これも数年前からあたるはずだったんですけども、70周年を兼ねてすることに決まったんですけども、あれも毎年他のところでもそうですけれども、出演された方は先帰っちゃうんです。最後の方になると、大ホールですね、ちょろっとしかいらっしゃらない。特に高砂の場合は大ホールになってしまいますので、その幕間とかステージとステージの間もなんにもない。

あの場をつなぐ何か楽しいこととか、お話、MCの方が何かなさるとかそんなものもない。だから準備するにはじーっと待ってる状態とか、だからその担当はあたってただけじゃなくて、何か高砂ならではのものがあってもよかったんじゃないのかなと思ったりしますし、高砂でするならするの大変な思いなさってるの、よくわかってるんです、もう準備とかね、当日の動き見てきましたから。そこら辺の、我々コンサートする時に、ステージとステージの間に、間を持たせるためにインタビューをしたり、それからいろんなお話を突っ込んだりするんですね。

だからそういうのも全然なくて、コンサートとか何か工夫があればと思ったりしますので、だからこういうせつかくいいことなんだけれども、市民にも浸透していくにはどうしたらいいのかなって考えてらっしゃると思うんですが、どうなんでしょうか。

【議長】

ちょっとご質問があったんですけども、1つはやはりPRとか、フィードバックですね、いなみ野学園なんかちょっと、そういうことをやってらっしゃるとか。突き詰めていうと、この高砂学の講座を作る、先ほどもおっしゃったプロフェッショナルとしての関わり方、例えばフィードバックをどうするかとか、それから講座をどう作っていくのかとか、実際に人をどう集めていく、PRはどうするのかっていう、プロフェッショナリズムとか、その辺りが欠けてるんじゃないかなと。

こういった事業に関して、今、委員の意見を聞いて感じたんですが、その辺りはいかがでしょうか。

例えば、場合によってはですね、公民館などは、当然社会教育についてご理解されたりとかしますし、最近の公民館では、外部委託で受けてらっしゃいますし、これからどうなるかわからないんですけども、そういうような、民間の力を使ったりしてるわけなんですけど、その辺の発想はどうでしょうか。

【委員】

アンケートを取られたものを、どこかで皆さんに見ていただくようなことはあるんでしょうか。こんなやりましたって広報に載ってることもあると思うんですが、実際に参加された方、これ面白かったよとか、子供たちの声とか、初めて体験してみてよかったわーというね、そういう声が見れるところ、聞こえるところっていう。

あわせてご質問、お答えいただきます。

【事務局】

アンケートにつきましては、ホームページ上で、こういったご意見ちょうだいしましたよというふうにお知らせをさせていただくんですけれども、例えば、今、委員がおっしゃったことに関して申しますと、例えば、令和2年度、3年度について12人が5人に減ったところとかですね、こういったところは、おそらく、僕もこの時代にいたわけではないのでちょっと、すいません想像になるんですけれども、開催された教室の場所であるとか、やる内容によって、例えば体験教室は、文化会館の多目的室でやったんだけど、どうせやるなら申義堂でやったほうがいいんじゃないか、その申義堂でやるには人数はこれぐらいの方がいいんじゃないかっていう議論がなされた上で、このような人数の変化が見られるのかなあというふうなことだと思っています。

それについて、横出先生と調整をとりながら、来年はこうしていきましようとかっていうようなこともお話ししながら、進めてきておるところですけれども、細かな検証までは至っていないというのが現状でありまして、手探りの状況ですけれども、来年はこうしていきましようっていうので、令和5年度から6年度、この6年度も、回数を複数に分けて、お1人当たりこういった内容でっていうので、手厚く教えていただけるような内容にした上で、やっているんじゃないかなというふうに思っています。

で、もう1点、民俗芸能祭のことにつきましても、今年度につきましては、70周年の記念事業と合わせて開催になりましたけれども、高砂市或いはこの開催に携わった事務局の一つ反省点があるとすれば、広報、周知の仕方であるとか、対象者の区切り方ですね、もう少し年齢層を下げた、子ども目線でも、集客に工夫すればよかったかなというふうには、反省する点はございます。

【議長】

ありがとうございます。

いくつか、少しそのずれた点もあって申し訳なかったんですけど、アンケートについては、一応、先生にはフィードバックする形で講座を修正しているということがございました。

一方で、委員がおっしゃったのは、それをどうPRに活かすかっていうことで、それについてはちょっと、研究不足だったということでもよろしいでしょうか。

【事務局】

はい。

【議長】

よろしいでしょうか他にもしご意見がなければ。

【委員】

ちょっとお聞きしたいんですけど、高砂学の講師さんの話なんですけど、それは個人で応募するんですか、それとも市の方が、あなたお願いできませんかとか声をかけられるんですか。

【議長】

どうでしょうか。

先ほどのご質問の回答に近いんですけど、ご意見お願いできますでしょうか。

【事務局】

それは講師様については個人的に交渉させていただいて、こういった内容でお願いできないかというふうな、交渉させていただいて進めさせていただきます。

【委員】

歴史の、仮に宮本武蔵でも、講義しますよね。やっぱり話術の問題でね、面白かったらやめないうでずっと聞きにこられると思うんですよね。その講師さんの話術で面白く持っていく。歴史は歴史でも、面白く持っていくっていうね。そういうところは、見極められるんですか。

そんなことまで、できないと思うんですけれども。

【議長】

了解、わかりました。

ご提案として講師の選定の際の一つの考え方としてテーマは大事なんですけども、いわゆる話術としましては、学校の先生方は、構成ということになるんですけど、どういう構成で授業されるか。いわゆる講師力っていうところに関してももう少し、考えてみてはいかがでしょうか。

ということによろしいでしょうか。
ありがとうございました。

【副議長】

ご意見よろしいですか。

民俗芸能祭については、高砂の4団体、オープニングで、謡曲「高砂」をいれさせてもらったんですけど、私の方で選ばせてもらったんですけど、もう少しそのちびっこの方もね、関わってたらよかったかなと今反省します。幕間の間、少しこうトークを入れるとかね、そこは今反省しております。2点目、議題と違うんですけど、文化会館の外の通路のところね。ランニングコストってことは書いてあるんですけど、どんな看板でもいいからとりあえず立ててみてね。ランニングコストとかって難しいこと言わんと、まず立ててみてやってみたらどうかなって思っただけ。

私もこれ、実際に例を挙げると、加古川総合文化センターは玄関口に大きな看板を立ててるんです。それが、ローソンとか道のこちらから見えるんでね。結構道端にそれがあると、車もある程度スピードがあるけど、ちゃんと見れるんでね。高砂文化会館も道沿いであつたらいいかなっていうふうにすごく思うんですけどね。

【議長】

また後で時間があれば少しご回答いただきまして、まだあと二つ残ってるのでごめんなさい。あと二つございまして、ご意見いただいたところについては、また検討いただいて、対応できることはしっかりと対応していただきたいと思い、無茶は言っていないと思いますので、できることを皆さんおっしゃっていただいたと思います。

次の議題の方に移りたいと思いますが、先ほど出た文化会館からの話で、ご説明をよろしくお願いたします。

【事務局】

はい。失礼します。

次にご質問っていうかご意見いただきたい部分についてはこの方針におきましては、おそらく、情報の収集、或いは情報発信というところの項目になってくるのかなというふうに思っておるんですけども、文化会館における展示スペースの活用についてでございます。

これも委員よりご意見をいただいております文化会館の展示スペースのことについてなんですけれども、本来であれば、市民の方の芸術作品或いはその研究発表の場として、使っていただきたいスペースなんですけれども、現状、1コマ当たりの金額が1万5000円というふうな金額が設定されておるため、利用される方がなかなかいらっしゃらない。そういった中で、市のPRとして、文化スポーツ課が作成したものを展示している状況です。

今後、スペースの運用につきまして、文化会館の指定管理者と一緒に調整をしていきたいというふうに考えていますが、例えば、分庁舎の多目的スペースで実施しているあいポットなんかは、使用期間約2週間で、もちろん無料なんですけれども、無料と言えど、使用期間中の現場においては、仕切り等何もなくオープンなスペースになっておりまして、管理においてはすべて出品者が管理するということになっております。

一方、この文化会館の展示スペースについては、きちんと施錠もできる、ガラス張りの密閉空間になっておりまして、施設の管理者の管理下において、提示することができるスペースでございまして、運用方法は、考えようによっては様々あるかと思っておりますけれども、例えば利用料金にみあったスペースとなるように、もう少し綺麗にリニューアルするであるとか、文化会館の指定管理の自主事業とのコラボによって、その利用料金を見直せないかとかっていうお話があるかと思っております。そういったことも含めて、あのスペースを有効に使っていただくには、どんな方法があるのかなというところでご意見ちょうだいしたいなと思っております。

よろしくお願いたします。

【議長】

ありがとうございました。

イメージがまだ掴めてないので、例えば広さどれくらいなんですとか。

【事務局】

具体的にその平米数を把握しているわけではないんですが、もしイメージしやすいとすれば、例えば、この端からこのあたりの長さで、奥行きがこのぐらいのガラス張りの展示スペースっ

ていうことをイメージしていただければと思います。

【議長】

これ1万5000円の1コマって書いてある。1コマっていうのはどういう。

【事務局】

1コマというのは展示できる展示期間のことで、そのスペースで、1ヶ月当たり1万5000円。

【議長】

ですから、ガラスのケースの中で先ほどおっしゃっていただいた三間、四間ぐらいのガラスの展示スペースがあって、それを1ヶ月1万5000円で貸してる。今のところ利用する人がほとんどいないということで、その利用をふやす方法は何か、或いは、ふやすためにどんな工夫がいるのかっていうことですね。どうでしょうか。委員なんかが一番詳しいと思いますが。

【委員】

場所を確認しますが、展示集会室の入口に向かって左側、もしくは、事務所の前どちら

【事務局】

事務所の前です。

【委員】

東館へ行くあの出口の。

【事務局】

そうです。

【委員】

あそこ貸し出してるの僕今まで全然知らない。お金がいるのも知らない。市のPRコーナーだと思ってた。ということは多分皆さん知らない。あそこで1万5000円高いよ。どんな文化団体でも借りないよそんなもん。まださ、展示集会の入口のところにさ、あれ企業のPRの、あそこは貸し出してないんですね。

一言で言うたら高砂PR下手だねってみんなで言ってるけど、その最たるもので、ごめん。1万5,000円は高い、誰も使わない。あれ無料にできないの。

【副議長】

無料にすればいいと思います。

【委員】

使い方はいろいろあるしね。例えば、文化連盟とか、美術協会に声かけてもらってもいいと思うんですけど。そしたら、月がわりでうち5部門があるから、その5部門が並べてもいいよね。いいですよ。また、どういうのかな。今市展でさ、大賞の人の受賞作家展してるじゃないですか。その人たちの作品を、ひと月、半月でもいい。あのスペースに並べてもらう。そしたらPRになって、知り合い見に来るじゃない。それともう1つ文化会館がカルチャーやってるよね。カルチャーやってる方の作品を並べる。そしたら、そのカルチャーのPRになります。使い方いくらでもあるじゃないですか。ただ、無料にしてほしい、あそこで15,000円は高いし誰もつかない。

【議長】

ありがとうございます。

【委員】

もう一つ。この2番目の、先生よく言ってくさったなと思うんですけど僕もずっと言ってるんですよ。文化会館で一番外通って、目立つのは、のーちゃんのものだと笑われましたけど、ただ一つここで言いたいのは、設置による来館者利用者増にどれほどの効果があるのが未知数っていう言葉があるのは僕引かかるんですよ。逆に言うとね。何やってるかわかんないっていう声の方が耳に入ってくるんです。作ったときの効果云々より、文化会館、今日車多いね何やってるの、そえんじの公演、昨日ありましたよね。

車がいっぱいでなんだろう、誰も分かんないんですよ。

やった効果よりもやらない方の効果っていうのは明らかに出てるんですよ。

それは聞いてもらってわかります。そっちの方考えて欲しい。言葉ではこれ綺麗なんですけど、お役所としてはこういうふうに見えるしかしょうがないのかなと思うんですけどね。

やらない方の効果の方が、こっちの耳にはよく入ってくるんで、そのあたり考えていただけたらなというふうに思う。

【議長】

ありがとうございました。まずご提案としては無料化したらどうかと。無料化しても、月1万5000円だったら、1年間で18万ですから、無茶苦茶な金額ではないんですよね。指定管理者と話をしても、それほどむちゃくちゃな金額ではないかなと。

具体的な方策として、美術協会が月に活用するとか、市展の受賞作品を定期的に並べてはどうかとか、文化会館を利用されている、教室の受講者の作品を飾ってはどうかとか。看板は後でまた議論させていただこうと思っておりますので、その時にご意見聞こうと思いますが、おそらく委員も、建てるというのは、横にこうされるような、バーのような構造を含めて、そんな難しいことをおっしゃってるわけじゃないと思うので、イニシャルコストっていうのは多分、看板設置用のモノをつくればコストはかかるんですけど、おそらく今先生方がおっしゃるのはそこまでではないですよね。見えるところに、実際に兵庫大学もこの間駅伝に出させてもらいましたけど、その時フェンスのところに、横断幕を貼ってるだけなんですけども、あれでも一応PRになってるので、その程度のことをおっしゃってる。そういうところから始めてはどうかということだと思うので、それでもしかなかったら、見てくれる人が増えれば、でいいと思うので。多分やらないよりもやったほうがいいんじゃないのというご意見だと思いますので、そこはまたご検討いただけたらいいと思います。

もう割愛させていただきます。

今こういうご提案ありましたけど他にいかがでしょうか何か、ご提案を。

例えば先ほど言った市の広報のスペースと交換するわけにいかないんですか。

同じぐらいのスペースだったなら、市の広報がどれぐらい使ってらっしゃるか全然わからないんですが。

【事務局】

そうですねスペース的にはさほど変わるものではございません。位置が、正面玄関入ってすぐ左手に見えるものと、奥まったところの事務所の前にまで進まないといけないっていう部分の違いだけで、入れ替えるってなったとしても、どこまでねメリットデメリットが発生するのか。あとは見やすいのは、確かに皆さん感じておると思うんですけど、市のPR部門の方が明らかに目につきやすいから。

【議長】

あとはもう考え方で、お客様満足度を高めていくような方向でいけば、委員がおっしゃったように、利用料金を下げるとか、それから、展示する人が届くであろうみんなに見てもらいやすいところに置くとかっていうのは、考える手法だと思います。あとはおっしゃったように、結局知ってもらうためには、要するに委員がおっしゃったとおり、誰も知らなかったのは非常に大きな問題で、知ってもらうためには、やはり見てもらわなければいけない。ここでこんな提供できるんだっていうふうに見てもらわなきゃいけないので、そのためにも、先ほどおっしゃった見やすい場所にするとか、それからロコミを広げるための方策ですよ。

例えば、子どもたちは何を展示したって必ず親来ますのでね。例えばそういうような発想があってもいいのというふうに、何かもしこういう使い方があったら面白いとかあればお願いします。

【副議長】

あそこはよく使うんですが、ほとんど変わってないんですよ。茶色っぽくなってる。それから事務所の横なんですけど、何でそこを借りようと思ったかといったら、高砂町ゆかりの人物のパネル展のパネルが大きいから、それを何枚か交換してね、提示しようと思ったんです。そしたら、15,000円かかるって言われて、でも高砂のPRに繋がるものですしね。委員が言ったように、事務所の横なら無料、展示集会室に向かって左側が15,000円は、余りにも高すぎると思います。

【議長】

私がまだイメージできておりませんからあまり言えなくて申し訳ないです。ご意見があれば

【委員】

今の展示の場所ですけど、展示室の1階ですよ、あそこ人通るんですかね。イベントだったら文化会館の上から入りますよね。お客さん1階で出入りとか、人の動きっていうのは、展示室に来るか、事務室で申込みかなんかで、来るぐらいじゃないですか。それが展示になるのかどうかという。ちょっとひどいというか、まだ、じょうとんばホールの前はね、人の通りも

多くて、それこそそえんじさん、昨日あったときでも、ホワイエのところに展示とか掲示とかできる方がよっぽど人の目と通ると思います。私も、一階の展示室はよく研修会で使ったことがありますけど、それぐらいのことですからね、1番使ってるところは、じょうとんばホールですから、その展示とかPRとかそういうの考えるべきじゃないかなと思います。音楽演奏関係の場合、リハーサルでね、展示集会室を必ず使うんですよ。専門の方だけです。一般には全然こんなあるのかわからない。

【議長】

要は2つあって、人が通るところに展示スペースを考えたらどうかという意見と、もう1つは一番高いよねっていう、この意見だと思います。

【委員】

各交流センター、カルチャーやってるところありますよね。例えば伊保交流センターで入り口入ったときに時々作品を展示してますよね。あれ無料ですよ。公民館が、自分のとこのやってるカルチャーで展示してるのは無料ですよ。

【事務局】

ちょっとはつきりとわからない。

【委員】

だったら無料でやるんだけど、それが言いたかった。

【委員】

今後のロビーコンサートの方の申し込みは、どういうふうになってるんですか。どういう状況でしょう。

【事務局】

令和6年度は、1月に2回ホールコンサートをやる予定です。2月に関しても、今、抽選前にはなるんですけども今市内の団体、3団体申し込みがありまして、抽選になる予定です。3月に関しては、ホームページにもお示ししているんですけども、市議会がありますので、しない予定です。令和7年度以降は、まだスペースの使用の期間がわかっておりませんので、まだちょっとめどが立っていない状態です。ただ、コンサート自体は、引き続きやっていく予定です。

【委員】

昨年度はね、先生方がお世話してくださって、最初からこんなに盛況であるとはもう本当に信じがたいほど皆さん集まって、毎回毎回たくさんの方が出演なさってですね。本当に市民の方に喜んでいただいて、実現できてよかったなと思いますし、市の方にもよく動いていただいて、ありがたいなと思ってるんですね。この高砂学ってやっぱりその歴史、郷土の歴史や文化を学ぶということになってるんですが、どうしても何かこう、古いものにとらわれてるようなところもあって、今後、将来を担う子供たち、もちろんふるさとのことわからない。わかって欲しいんですけども、時代に即したというか子供たちの目線に合わせた、なんかそういうことができないのかなあと思ったりして、直接高砂と関わりがないかもしれないんですけど、去年その北脇の方で、北浜町の方で、クリスマス会をした折に、チャイコフスキーのくるみ割り人形をピアノと連弾して、語りも入れて、ダンスも踊っていただいて、そうしたら、親御さんも、こんなストーリーがあったの、曲は聞いたことあるけどって、すごい子どもたちも楽しんでくれたんです。今年は、子どもたちには内緒なんですけど、ヘンゼルとグレーテルをする予定なんです。魔法の帽子も買いましたね、魔法の杖も用意をして、だけど登場人物が非常に少ないので弾いて語って歌ってという感じなんですけど、そういうのはぜひとも合唱の先生もいらっしゃいますのでね。高砂でミュージカルっぽいことをしながら、子どもたちの参加で親も来ますし、おじいちゃんおばあちゃんも来ますしね。そういう動きがちょっと欲しいなど。この間、ご協力いただきましてこのチラシを、子育て支援のコンサート、2日でしたかね、入れていただいてすごい大雨だったんですよ。ところが、もちろん市の方もだし、知り合いが、姫路市在住の方で、土砂降りの中レインコート来て車の誘導なさっておられたんですよ。来客が少ないかなと思ってたら車がいっぱいで、そこに入れていただいてありがたかったんですけど、その子どもに、いいもの見せたいな、聞かせたいなと思っても、普通にバレエとか見に行くと非常に高いです。今、兵庫県の西宮まで行かないと、パリオペラ座とか、素晴らしい海外の舞台を映画にされてるものが、西宮市に行かないと見られないんですけど、

実際の舞台上で観るよりは、アングルも違う角度から見られるし、格安で見られるのでぜひ行きたいなと思ってるんですが、そういうものをやっぱり親も欲してると思うんですね、子どもにいいものを与えたい。うん。だからそこら辺の、歴史とかっていうことだけじゃなくって、そういうものが高砂には足りないんじゃないかなあと思うんですけども。

だから、ヘンゼルとグレーテルも子供たちがいっぱい出てくるとね、ミュージカルっぽいものがいっぱいできて、いいなあと思ってるんですけど、いかがでございましょう。

【議長】

まずホールコンサートは、また次に話をしますのでちょっとまたご意見を賜りたいと思います。それから遡りますけど、高砂学については子どもを囲むということで、そのためには歴史だけでなく、今の流行りのものや、高砂に拘らなくてもいいんだろう。つまり、もっと子どもたちに、文化の素晴らしさを知らせるのも、高砂はそういうこともできるんだよということを見せることも大事だと。こういうご意見があります。ありがとうございます。

ほかにどうでしょうか。展示スペースに戻って申し訳ないんですが、今、展示スペースのご提案というのは、まず15,000円は高いというのが、皆さんほぼほぼ納得されると、これは1つには、あまり目立たないのではないかっていう、それから人通りが多くないんじゃないか。そこで15,000円は高いし、また委員の言うように知らなかった。これではやはり、せっかく作ったものが、何も使われないままになってしまうんじゃないですか、というご意見でした。

2点目は、そこを引き下げただけであれば、委員の方からの高砂をPRすることもできますよっていうご意見もありましたし、それから各団体が展示することによって、より知っていただく機会になるんじゃないか。こういうふうなご意見があったというところでございます。

大体よろしいでしょうかこの辺り。展示スペースにつきましては。

いろいろと厳しいご意見もあったと思うんですが、15,000円で12ヶ月だったら、無茶苦茶な金額ではないと思うので、値段の引き下げもですね、またお考えいただいてもよろしいかなという。

【委員】

質問なんだけど、じょうとんばホールの入ったところは、展示できないですか。

【事務局】

ホワイエにつきましては、ホワイエ部分だけでの貸出しではなく、ホールとセットでの使用でない。ホワイエ部分だけの貸出しはないので、なかなかあそこの部分だけでの展示スペースとして活用っていうのは、難しいんじゃないかというふうに思います。

【議長】

大変貴重なご意見で、おそらく人通りというのは何度もおっしゃってますので、展示スペースを考えてもいいんじゃないか。今、おそらく指定管理者との契約がございまして、それを切り換えなきゃいけないとか、調整しなきゃいけないという課題はあるんですけども、これは委員の意見ですので、駄目というより、ぜひ意見が出たということで、ご了解いただければと思います。人に応じて、指定管理者と協議をし直せばいいんですね。それほど難しくはない。

実際どれぐらいの経費が必要なのか、それ全然私はわからないので、そこら辺は具体的には、事務局で決定するだろうと思います。2つはよろしいですか。

【事務局】

はい。

【議長】

そうしましたら、すいませんあと3点目残ってるので、3点目についてなんですけど先ほど委員から、少しご指摘があった、分庁舎のホールコンサートの件でございます。

これは電子ピアノの運用も含めてのお話だと思いますけども、ご説明お願いできますでしょうか。

【事務局】

ありがとうございます。

最後のご意見は、議長からもご案内がございましたように、寄贈いただいた電子ピアノの運用について、がメインでございます。今年の夏、7月末でありますけれども、寄贈いただいてから、これまでお披露目会そしてホールコンサートで使用されていますが、実はこの細かな運用面っていうルールがまだ規定されずに続いています。とは言いましても、運用にあたっては最低限

のルールは必要ではないか、というふうに考えておりましたが、なかなかその線引きは難しく、細かく設定してしまうと、せっかくご寄贈いただいた品物を有効に使用しにくいというような状況になりかねません。

市にいただいた電子ピアノですが、文化芸術振興への寄与を目的に寄贈されたピアノなんですけれども、他市町のような駅構内であるとか、大きい商業施設の一角、或いは市民広場など、たくさん人の出入りがあるところで設置されているわけではございませんので、一般的なストリートピアノというような運用はちょっと難しいんじゃないかなというふうに考えております。例えば、文化芸術の発展、或いはその演奏家の発表や音楽に触れる機会の提供という意味で、毎日ではないんですけれども、何曜日の何時から何時というような期間において、演奏の機会を開放するというような方法を考えておまして、移動させることが難しい中では、ちょっと範囲は狭くなってしまいうんですけれども、他の取り組みと、コラボも考えた上で、有効な活用方法がないか、参考になるような意見を皆さんからお伺いできないかというふうな提案です。

【議長】

ありがとうございます。この審議会の面白いなと思うのは、如何に市民を巻き込めるかっていうような重要な観点でございます。市民のうちへの巻き込み方っていうのは、ストリートピアノをやるように、市民誰でもっていうのもあるんですけどもそうじゃなくって、もうちょっとそのプロの演奏を聞かせたらどうかと。そういったことで、市民を巻き込んでいきたい。さっきの展示スペースもそうですが、市民が自由に展示できるのも大事なんですけど、委員がおっしゃったように、高砂のゆかりの人物をうまく並べることによって、市民理解を促進する。いろんなやり方があると思うんで、今回のこの電子ピアノについては、何か皆さん、どんなご意見をお持ちなのかという。実際加古川駅にも、そういうピアノはあったんですが、撤去されちゃったんですね。そういうことも多分踏まえてるご質問だと思うんですけども、

【副議長】

本当に嬉しかったんです。実際にプロの方に弾いてもらったら、すごい良い音色で、少しばかりアップライトピアノには劣るかなと思ったんで、そうでないことをすごく思いました。それとホールコンサートがすごく盛況になってきてるんですけど、文化スポーツ課の皆さん総出で椅子並べとかしてくださって、それもうすごく感謝してますし、市民と文化スポーツ課が協働してやっていて、あれだけの人数がいい雰囲気の中で、展開してるなって思ってます。ありがとうございます。

【議長】

ありがとうございます。

【委員】

電子ピアノじゃなくてもいいですか。

【議長】

そう。

【委員】

国際交流課の方で、最近、日本語の試験もどんどんレベルっていうか、昔は漢字が読めなかったらそれこそ駄目みたいなね、介護の方もそうなんですけど、このごろ平仮名がついてるんですよね。国際交流にこられて、自分が漢字が読めなくても、国際交流課に行ったら聞けば何とかなるんでしょうけれども、送られてくるいろんなものに平仮名がつけられてない、その辺、高砂市って、海外の方にやさしい市なんですか。それこそ、太鼓の方に来ていただいてね、やっていただいたんです。多くの方が参加して下さったんですよ。

海外の方でももちろん日本の子どもたちも来てくれて、すごい喜んでやってくれたんですね。

で、せっかくこうやって実施して下さる方があって、重い楽器をいつも運んで下さってる方がいて下さるわけで、そこら辺りとの交流も、もっとできたらいいなあと思うんですけど。

【議長】

今日の議論として、本格的な話なんですけど、先ほど申し上げたように、市民をどう巻き込むのか、この市民にはもちろん外国人の市民も入っております。今のダイバーシティ、それからイクオリティ、それから、インクルージョンですね、DEI と呼びますけども、多様性、公平性、多くの方を受け入れる、受容性ですね、これが今世界的に、SDGs もそうですけど、進められてる中で、ルビを振るっていうのは、外国人だけでなく、小さい子どもさんにもすごく大事だと思います。

います。そういう意味では、例えば展示スペースを作るにしても、高砂学を行うにしても、こういう電子ピアノを使うにしても、やはり皆さんにわかるような方法にしてかなきゃならないということで、おっしゃっていただいたかと思うんですけど、常に DEI を踏まえながら、進めたいというふうに思います。

どうもありがとう。

【委員】

電子ピアノを使用するにあたって、最低限のルールは必要だと私も思うんですけど、どういうシチュエーションで弾くのか、誰が対象なのかっていうので、そのルールづくりは変わってくるかなと思います。例えばお客さんを集めて聞いてもらうために使うものなのか、それとも誰もが気軽に弾けるものなのか。それでやっぱり変わってくるかなと。

なので、市民を巻き込むっていうときに、誰でも弾けるよってなると、少しハードルが下がるのかなと思いますし、ただ、何でもかんでもいいよ、としたらすぐ壊れたりそういうリスクが出てくると思うので、どういう使い方、見せ方、聴かせ方っていうのは、変わってくるんじゃないかと思います。それを使うにあたって、手続きが複雑になると、敬遠するんだろうし、簡単すぎるとさっき言ったようなこともあると思うので、ちょっと考えていかないかなかなと思います。

【議長】

ありがとうございます。委員的には、どちらの方がいいと思いますか。

【委員】

僕は使いやすい、誰でも使えるっていう中で、ある程度のルールがあるのが、市民の皆さんもしやすいかなと、加古川ではちょっとやかましいとか、使い方の問題が出てきたので。

その辺りしようと思ったら周知も必要でしょうし。

【議長】

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

何かご質問とかご意見。1つは先ほどおっしゃっていただいたように、手続きはなるべくシンプルにしようというのが1つの方向性であろうかと思っています。2つ目ができるだけ市民に開放していきましょう。

広く使えるようにいたしましょう。三つ目を挙げるとすれば、やはりこのピアノはどういう意味があるのか、先ほど周知というふうに教えていただきましたけれども、結局、子どもの声が騒音と聞こえるのか、活力あると聞こえるのかっていうのは、理解度によるわけですね。

ですからやはり、どういう意味があるのかっていうところをきちっと周知していかないと、さっき先生がおっしゃったように騒音と見られてしまうかもしれないですね。

だからその辺りもどうするかっていうのもあると思います。

それともう1つ、私が当初申し上げたように、プロフェッショナルによって、たまには使ってもらっているのは大事だろうというふうに思います。委員がおっしゃったように、すばらしい音色を、多くの方に聴いていただくっていうのもまた大事かなと思いますので、この辺り両立するようなところが多分必要なんだろうと。

ですから例えば、プロコンサートの日は、例えば、ひと月、2か月に1回、年に1回ありますよ、みたいなものを決めておいて、あとはある程度充実して使えます。そういうことも必要なのかなと思います。

いかがでしょう。

これ類似事例とかないんですか。

【事務局】

近隣の街かどピアノは調べてるんですけど、同じように市役所内に置いてあるピアノっていうのは、加古川の市役所1階ロビーと、加古川の総合文化センターにあります。

加古川については指定された日に使ってください。12時から13時の間ですよっていうようなことをホームページで周知して、1人当たり10分以内で弾いてくださいっていうような感じで使われています。総合文化センターも同じような利用のされ方をしています。

【委員】

また別問題かもしれませんが、ピアノだったら調律ありますよね。電子はそないに壊れるものじゃないんですか。どうなんでしょう。

【事務局】

基本的に調律は必要ないんです。ただ電化製品なので、大切に使用していただかないと、壊れる可能性はあります。

【議長】

よろしいですかね。

それではいろんなご意見賜りましたので、管理の方法としては、やっぱりこうきっちりするんじゃないかって、先ほど、加古川市の事例もございましたけども、時間帯を決めるとかいうような形で、できるだけ多くの方に触れていただくことが大事ですね。また、委員もおっしゃっていただいたようにやはり管理の問題もありますので、丁寧に使ってくださいというのはしっかりとさせていただく必要があろうかと思えます。

市民の方に、先ほど言ったように、このピアノはなぜここにあるのかっていうのを理解していただければ、そんなに傷むことはないと思うんで、周知と併せてご確認いただければと思います。

ということで、今日は3つ課題を挙げていただいたわけなんですけども、あともうちょっとだけ時間がございますので、他のことで、資料1、或いは資料2ですね、ご質問に対するご回答、先ほどの看板の話は委員会としての提案は、やってみたらどうという提案ですので、ご検討いただければいいと思うので、他なにかもし、令和6、7年度事業でご質問とかご意見があれば承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

【副議長】

これ質問してるんですけど、委員もよく言ってたと思うけど、市制60周年記念の時のその行事の取り組み方の速さと70周年は、この昔から意見あったと思うんですけど、やっぱり遅過ぎたというふうに思いました。

これは行事をどうとらえるかということとも重なってくると思うんですけども、プラスの仕事になるからね、大変やと思うけど、高砂市をPRするいい機会だっけとらえてね、積極的にPR活動、或いはいろんな行事に取り組んでいくかということろだと思えば、これからまた80周年を迎えることにもつながるんですが、そういう意味では高砂市をPRする良い機会ととらえてね、プラスの仕事になるんですけども、何かをしようと思ったら、やっぱりプラスのことをね、やっていく、積極的に進めていくっていうのは大事だと思います。

そういう面で高砂市制70周年、いろんなイベントがあるときには、高砂市をPRする機会ととらえてもらったらなというふうに思えます。

これは要望です。ありがとうございました。

【議長】

はい。別に言い訳ではないんですけども、新型コロナの問題もあつたりしてなかなか行事ができるかどうかとか、そういった中でと思いますので、かなり苦しかったと思います。また80周年とか100周年の時は、先ほど仰っていた、ちょっといろいろ考えていただくときに、「お客様目線」も大事かな。それは、さっき一番最初に私が申し上げたように、個性を発揮して、競争力を高めていかなきゃいけないときに、非常に重要だと思いますんで、皆さんがおっしゃるように、それから委員もおっしゃったけども、PR下手と言われる高砂であればこそ、せっかくの機会を、やっぱり理解していただくのが重要なと。

私はそこまでわかんないんで、皆さんそう思ってるらしいので、あえて申し上げますと、何とか検討をしっかりと機会をとらえていただければと思います。

どの自治体さん言っても、うちの自治体はPR下手ですと、皆さんおっしゃるんです。謙遜されてか、本気かどうかわかりませんが、だからそこはあんまり私も、客観的な指標をもって、下手と言ってるわけでありません。そこはご理解ください。

何かもしお気づきの点とかご質問がありましたら承ります。いかがでしょうか。

せっかくさっきの看板の件で、一応ご提案をさせていただきましたけど、どうでしょうか。

具体的に、今2人の委員から出てましたので、一応ご回答だけいただければ助かります。

【事務局】

ありがとうございます。

今この場で、すぐにどうこうっていうお返事は、し難いかとは思いますが、ご提案させていただいた内容っていうか、一つ、以前からこういうお話がありまして、審議会以外のと

ころでもそういう声が上がっていたのは当然私どもの方でも承知しておりましたところで、決して後ろ向きにならないように、検討していくために、まずは、そういったところから検討材料を見つけるかっていうところで、ちょっとまた、お金の話になってしまうと進むものも進めなくなってしまうかもしれませんけれども、一つの材料として、こういったことから検討していきたいというような提案をさせていただいたところで、委員からいただいた意見を、もちろん参考にさせていただきながら、前向きに考えていきたいと思っています。

【部長】

失礼します。

健康部長です。なかなか担当ではお答えできないところがございますけれど、私が一番責任者として、本日は、いろいろと皆さん各方面から、ご意見いただきましてありがとうございます。特に高砂学が、あと会館の展示スペース、あとホールコンサートについてということで、まさにうちが高砂市として、一番の課題、この文化振興基本方針、まず課題となっております積極かつ効果的な情報発信というのが課題になっておりまして、今、現に第二次のところについては、基本目標に、情報を伝えます、または文化芸術の機会を作りますというところで、それぞれ高砂学にしても、展示スペースを活用にしても、ホールコンサートにしても、本当にこの基本目標に沿った形でやるべきことだと思います。そこについて、今日本当に言いたい話なんですけども、はっきりとしたご指摘をいただきましたので、私としましてもやはりそこをしっかりと皆さんのご意見を聞くだけではなくて、そこをどのように、今後していくのかっていう、改善点を含めまして、やはり担当だけじゃなくて市として、改善していかなければならないなと思っております。

一つは展示室のところ、委員にもご指摘いただきましたけど、おそらくですけど、私も昔の話でわからないんですけど、多分できた当初から、そういうような位置付けで、これ、条例にも非常に高い金額で、あるんですけどそれはもう何十年前から変わってないような状況であります。ただ今のご時世、やっぱりそういう PR 下手というような話があって、先生からご指摘がありましたけれど、やはり私ども市全体で、文化だけではなくていろんなことについて PR 下手だというようなところでご指摘を受けてる中で、そこでまさにその文化の発信っていう場所が文化会館であるならば、その発信というのはやはり考えていかなければならないというふうに思っておりますので、今日のご指摘をいただいた中で、この展示室だけではなくて、文化会館全体、またその東館の利用というのも今、いろいろ課題になっています。

東館も保健センターが本庁の方に来まして、かなりのスペースがあると。

その中でカルチャーとかいろいろやとるんですけども、そういった空いてるスペースもやはり活用っていうのが今、課題になってますので、そこは、指定管理者とともに課題について、担当の方も検討しておりますので、いただいたご意見も含めて、また高砂市として、ぜひその情報発信の場が、文化会館になるような形で進めていきたいなというふうに思っております。

その一つで、先ほどの看板のところの話も担当からも、なかなか答えにくいようなところで、申し訳ないんですけども本当にそこは、どういうふうな形で PR したらいいかっていうところをしっかりと考えていきまして、まだ担当として、全庁的な、そういう会議体もございますので、そこにかけて、進めていきたい。

あと、ホールコンサートのところにつきましても今現に、団体、またはその委員からもいろいろとご意見いただいてホールコンサートの実現をしておりますけれども、非常に反響は良くて、たくさんの人に来ていただいている。

この11月ですかね、来週には子どもがそこで歌うというところで初めてこどもがきて、こども園の、園児たちが歌って踊る機会があります。

すごく食堂の前ということもありまして、いい形で発信ができてるんじゃないかなと思いますけれども、そこにまた寄付をいただいて、電子ピアノがありますので、今、担当でいろいろ考えていただいているんですけども、やはり限られた時間、また分庁舎というところで、ホールとしての目的ではありませんのでなかなか限られた時間と限られた中で、どのような形で、うまく使っていくのかっていうのを、今回はそういうのは皆さん、ご意見聞いたと思うんですけども、ぜひとも皆さんに聞いたご意見っていうのを生かしながら、そういったところを、電子ピアノまたはホールコンサートっていうのを今後もさらに充実させていきたいなというふう

に思いますので、今後とも、いろいろご意見をよろしくお願ひいたします。はい。

【議長】

どうもありがとうございました。

【委員】

高砂市内ではもうしないのかもしれないんですけども、また今度知事さんの選挙があって、予算的にもどうなってくるかわかりませんが、兵庫県の中の、高砂ということもちょっと考えてくださってると思うんですが、なかなか情報はね、やっぱり伝わってくるのが遅いので芸術文化センターを使わせていただくことに関しても、もう本当にぎりぎりに伝わってきたりとかで、先ほど委員も言ってくださいましたけど、人事で入れ替わるのでちょっと情報がわかりにくいところもあると思うんですが、2、3年前には必ず2、3年前じゃなくても、必ず10年後には何十周年くるのはわかってますよね。

で、それに対する準備なんかでも、例えば文化庁のほうの助成金もらおうと思っても、11月の、もう何日かしかないんですよ。こちら案内いただいて、15日までに提出せんと、そこで出演者から料金からすべて書かないといけないわけです。オーケストラとか頼もうと思っても、もう来年度、早いとこだから来年度も決まってるわけですよ出演がね。それこそ来年8月3日にそれはもうアマチュアプロがまじったオーケストラですけど、来てもらうことになりましたけど、もう季節のいいときをお願いしたいと思っても、もう駄目なんです。取れないんです。ですから、予算が決まらんと、何とも言えないです、そこもあると思うんですが、やっぱり2、3年前には、おっきな何十周年という、そういう事業、わかってるわけですから、何かその辺りの準備は、もう本当に早めに次の人事の方に伝えただけならと思います。

はい。どんどん県の方にも出て行ける高砂市であって欲しいなと思いますし、是非とも未来のね、子供たちにはそういう場も踏んでほしいし、大きなステージを踏んで欲しい。

昔はオーケストラが来てましたよね、文化会館に。音楽鑑賞もしましたよね。

今、中学生は行ってるんですかね音楽鑑賞で芸文の方に、連合音楽会で昔は出演しましたよね。その子たちが市歌を歌ってきましたよね。だからそういう経験っていうもの、ほとんどやっぱり小さい子たち、将来を担ってくれる子供たちのことを、もっと私も子育て中は60代50代のおばさんたちえらい元気やなあと思ってました。

こっちが言うたら子育てで毎日大変な思いして、仕事とそういうことで、その当時は、学童は高砂小学校にしかなかったんですよ。地域の小学校にお願いしに行っても、けんもほろろに駄目だというふうに、教室空いてるやんと思ったんですけど、全然もうそういう時代じゃまだなかったですからね。今学童は当然のような感じですけど、だから子どもも無認可の方に預けたりなんかしてね、私事ですけど、保育園預けてやりましたけど、ただ時代もどんどん変わってるんですけどもね。だから、もっともっと、子供たちが未来に向かってというか、どんどん時代が進むのが早いですから、大人がついていくのが必死でそうなるので、ちょっとその辺の意識の持ち方を、考えていただければと思うんです。

【議長】

どうもありがとうございました。

ちょっと先々の話も出たので、せっかくですからスケジュールについてちょっと事務局の方からご説明いただけますか。

【事務局】

ありがとうございます。ご意見ちょうだいしました。

今後活かしていきたいと考えております。

来年のスケジュールについてなんですけれども、この第二次高砂市文化振興基本方針、この方針期間につきましては、委員の皆様、ご存じの通りであると思うんですけども昨年令和5年から令和14年までの十年間ということになっておりまして、国、或いは県の動向、社会の状況の変化を見ながら、令和9年度には中間見直しを行う予定でございます。

事務局としましてはこの中間見直しである程度の期間はございますけれども、この期間を十分な準備期間として有効に使っていききたいというふうに考えておりますので、委員の皆様におかれましては引き続き、任期といたしましては、令和7年の9月30日ということになっておりますけれども、もちろん再任ということもございますので、引き続きご協力、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

以降審議会の開催につきましては、来年の7月ごろに第1回目、そして10月ごろに第2回目という形で、文化振興審議会の予定をしております。

第1回文化振興審議会につきましては、令和6年度の事業結果の報告をメインに、令和7年度事業の予定を取りまとめたものを事前に皆様に提示させていただいた上で、ご意見をちょうだいするというふうに考えております。また本日、ご回答ができなかった項目、或いはそういった事項につきましては取りまとめたものを次回の会議の場でお示しさせていただきながら、意見をいただきたいというふうに考えております。

開催日の詳細な日程につきましては後日調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

以上です。

【議長】

どうもありがとうございました。

【委員】

提案ということではないんですが、質問というのがいいかもしれませんが、たまたま昨日、博士ちゃんっていう、芦田愛菜とサンドウィッチマンが出られてました。あれで、石の宝殿がでてまして、私も毎週見るわけじゃないんですけども、神社仏閣の博士ちゃんっていう題があったんで、一応ビデオとって、パッと見たら、石の宝殿は日本三奇と言われてますけれども、そこで博士ちゃんが石に興味を持ってるので、その石の宝殿の浮石っていうのが、まったく歴史もわからないんですけども、隔離搬送とかなんかいうて、その石の宝殿のことを言ってますけど、高砂出てんねやっていう感じがあったんですが、あれは、もちろん生石神社には申し入れがあったんでしょね多分ね、そういう市内のそういう映ってるとかそういう、取材とかそういうのは、高砂市ではわからないんですよ。

【教育推進室長】

文化会の方に、映像を使わせてほしいという依頼がありまして、申請がありましたので、提供させていただいて、取材までは行ってはないんですけど、映像の使用許可を出して、生石神社のほうも許可をしてという感じです。

【委員】

一応全国放送だと思うんですが、それを市民が知ったら、「石の宝殿か」みたいなね、改めて感動をしたりするでしょうし、全国区やんか、という感じもあるしね。

そういうとこ、こういう放映されますとか、そういう告知を事前にね、昨日今日とってすぐ映るわけじゃないんですから、わかってることだったら、それこそ高砂ナビでも放映されますとか、そういうお知らせが大きいんじゃないかなっていうふうには思います。

【議長】

ちょっとよろしいですかね。

二つありまして、いわゆる目論見書みたいな形で、いわゆる映像などの素材を提供していくことを一元化していくっていうのも方向で、そうすると、統制だったものが提供できるので。もう一つは、要するにその情報をキャッチすることがどこまでかどうか、今回はなかなか資料映像、市が持ってますかって話だったんですが、もし生石神社だけにいったらおそらく、市がキャッチすることは難しかったわけですから、こういう情報をどうキャッチしていくのか、っていうのがないと、先ほど委員がおっしゃったようにそれを発信することはできませんので、二つですね、発信の仕方においてはやはり、映像提供システムがあるかと思うんですけども、それもすぐにはちょっとなかなか難しいところがある。

もう一つは先ほど言ったようにどういうキャッチしていくか、なんかそこら辺はもし今、おわかりだったらば。

【教育推進室長】

市内の情報ネットワークによって、キャッチしていかないといけないかなと思うんですけども、こちらからの情報の発信というところでは、今回、ホームページにはちょっと挙げてないと思うんですけど、SNSの方でとか、発信をちょっと確認できてないんですけども、できるだけ市民の方々がわかりやすいような方向での発信というのは、ちょっと考えていかないといけないかなと思います。

【議長】

ありがとうございました。

やっぱり最終的には PR になっちゃいますね。課題だというふうに感じてらっしゃると思います。そうしましたら、私の方で進行を終わらせていただきまして、事務局の方に進行をお返ししたいと思います。

【事務局】

本日は大変熱心なご審議を賜りありがとうございました。

閉会にあたりまして、副会長からご挨拶をお願いいたします。

【副会長】

皆さん、ご苦労さまでした。取り組みにあたって意思を持つ必要があるっていうんで私思うんですけど、これはいなみ野学園の学生なんですけども、実行委員長してるんですけども、去年は4000枚のチラシで今年は1万4000枚作ってね、もうほとんど、まき終わったんです。

そしてそのいなみ野学園の募集案内はね、今まで1ヶ月単位ぐらい来てたんで、それを学園の方をお願いして、11月から3月の4か月してもらって、それを私、学生なんすけど5000枚も配るようにしてるんですけどね。だから、人がどうこうというのは、やっぱり文化とかこういうのは、誰かがやっていかないと、突破口が開けないので、指導協力し合いながら、共に頑張っていきたいと思います。よろしくをお願いします。

以上です。

【事務局】

どうもありがとうございました。

それではこれにて閉会いたします。